

株主・投資家の皆様へ

yokowo

第82期 中間株主通信

2019.4.1～9.30

株式会社 **ヨコオ**

(証券コード：6800)

株主の皆様へ

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

グローバル市場の競争環境はさらに大きく速く変化しており、当社主要市場である自動車／半導体検査／携帯端末市場においても、CASE^{※1} / MaaS^{※2} / 5G / IoT普及 / AI(人工知能)活用拡大など革新的テーマに向けて、顧客・ニーズ・競争優位性など市場構造が急速に変わりつつあります。

このような状況の中、第82期(2020年3月期)第2四半期連結累計期間(上期)の連結売上高は、299億3千3百万円(前年同期比+12.3%)となり、過去最高の上期売上高を更新いたしました。営業利益についても、回路検査用コネクタ及び無線通信機器の両セグメントが大きく増加したことから、25億4百万円(前年同期比+89.0%)と上期として過去最高を更新いたしました。経常利益は、円高による為替差損2億4千4百万円を計上したものの、営業増益により、

22億1千1百万円(前年同期比+26.9%)となり、これを受けた親会社株主に帰属する四半期純利益も16億4千5百万円(前年同期比+27.8%)と、どちらも上期として過去最高の利益となりました。

通期の業績予想については、当上期業績や下期の受注見通し、為替相場の動向などを踏まえ、8月に続き2度目の上方修正を行いました。なお、中間配当については、当初予想どおり1株当たり14円と決定いたしました。

当下期以降は、全社的事業進化に向けて、車載通信機器セグメントにおける収益体制の再建を急ピッチで進めるとともに、回路検査用コネクタ及び無線通信機器の両セグメントではさらなる事業拡大と収益性の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

敬具



代表取締役 執行役員社長

徳間 孝之

※1 CASE: 自動車の新しいトレンドであるConnectivity(接続性)/Autonomous(自動運転)/Shared(共有)/Electric(電動化)

※2 MaaS: Mobility as a Service(移動のサービス化)

企業理念 VISION

ヨコオは、企業ビジョンとして「社会に貢献し顧客の信頼に応えるため技術を蓄え、市場の創造に全員で挑戦する進化永続企業」を掲げています。

yokowo

企業使命 MISSION

ヨコオは、「サステナブル・ソサエティの実現に向けて、事業構造革新を進める先進企業のニーズに応え、当社コア技術に基づく高品質製品の提供により社会の進化に貢献する」ことを企業使命と考えています。

ヨコオの事業領域

当社グループの事業領域は、大きく分けて、車載通信機器／回路検査用コネクタ／無線通信機器の3つのセグメントがあります。

精密金属パイプ加工からスタートした当社は、アンテナ技術・マイクロウェーブ技術・セラミック技術など様々な技術を導入し磨き上げ、アンテナ／コネクタ／先端デバイス製品と事業領域を次々と拡大して、革新的な製品を生み出してまいりました。

これからも、次世代のエレクトロニクスをいち早くとらえ、最先端の製品を世界に向けて提案・提供し続けることにより、さらなる成長と企業価値向上に努めてまいります。

車載通信機器 売上高 **195億1千5百万円** (前年同期比+4.6%)



車載アンテナ

車載アンテナの基本ニーズである小型化・複合化・低背化・スマート化に応えるため、次世代の車載通信を支えるアンテナシステムを開発・提案し続けることにより、安全・快適なモビリティサービスの実現に貢献します。



シャークフィンアンテナ



インパネ内蔵アンテナ

yokowo

回路検査用コネクタ 売上高 **60億6千8百万円** (前年同期比+39.8%)

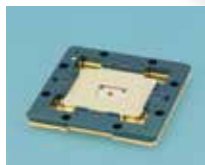


半導体回路検査用 コネクタ

電子部品の回路検査の微細・高速対応ニーズに応えるべく、半導体製造プロセスの前工程から後工程まで全ての領域に対し、微細な回路検査用コネクタを開発・提供しています。



プローブカード



高周波対応ソケット

無線通信機器 売上高 **43億4千9百万円** (前年同期比+19.5%)



電子機器用コネクタ

各種電子機器の小型化・省スペース化ニーズに応える微細“スプリングピンコネクタ”をグローバルに開発・提供しています。



各種スプリングピンコネクタ



医療用デバイス

低侵襲治療の実現に貢献するOEMガイドワイヤ、医療用カテーテル微細精密部品の設計から開発・製造まで提供しています。



ガイドワイヤ・カテーテルシャフト用コイル

社長インタビュー

本年6-7月に実施した株主アンケートで株主様からいただいたご質問・ご要望を中心に、徳間社長にお話を伺いました。

最初に、株主アンケートで最もご要望の多かった「自動運転／5Gへの取組み」について教えてください。

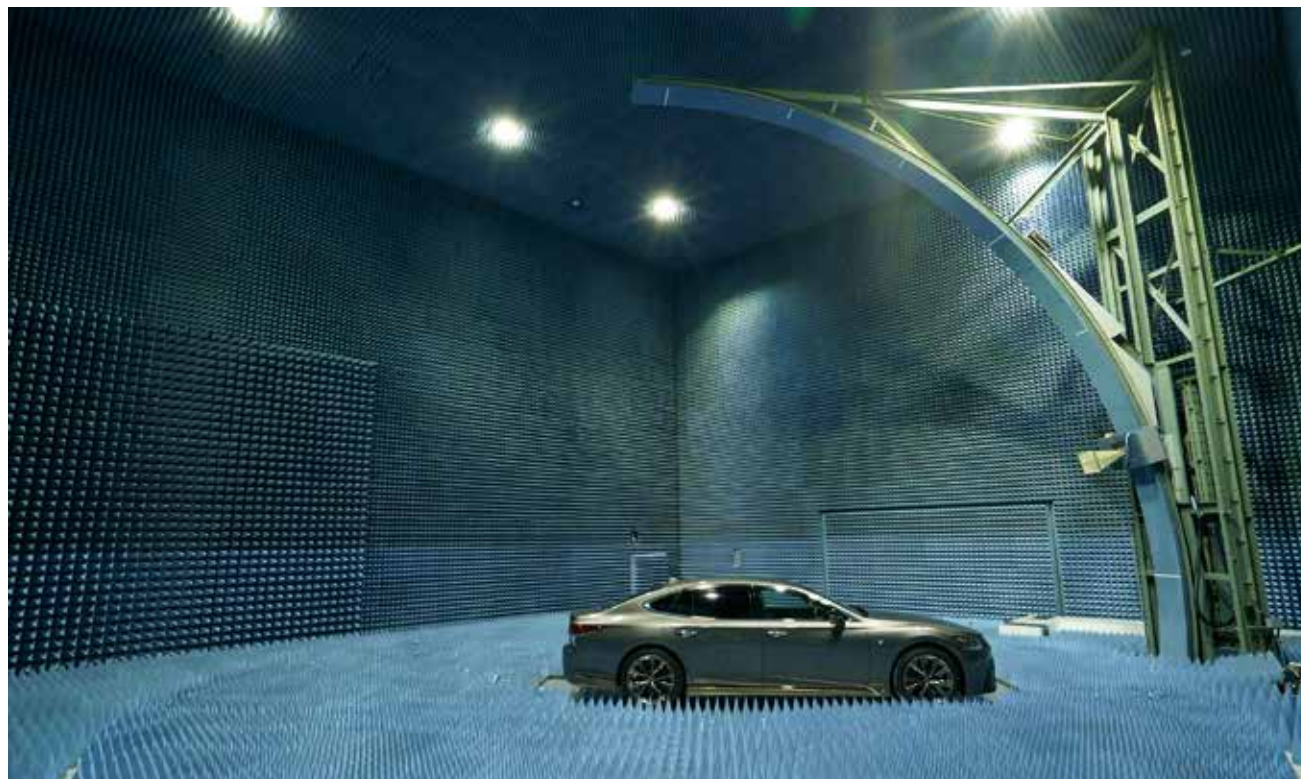


自動運転／5G(第5世代移動通信)というテーマについては、車載通信機器／回路検査用コネクタの両セグメントで深い関わりがあり、部門横断的なプロジェクトを組んで協力を推進しています。

まず、車載通信機器セグメントにおいては、自動運転／ADASに対応した車載アンテナの開発を進めています。一般的に、自動運転の実現には、アンテナ／センサ／カメラの3つが重要といわれており、通信規格として高速大容量・低遅延・多接続の5Gが不可欠といわれています。したがって、これを可能とする車載アンテナの5G対応は、自動運転という一大テーマにおいて大変重要なポイントだと考えています。

新製品についてはまだ開発中ですので、具体的な事は申しあげられませんが、お客様と緊密に連携しながら着々と推進しています。

その製品開発に必要な設備として、当社は、2018年10月に新「電波測定サイト(電波暗室)」を新設しました。このサイトは、5G対応製品の開発に必要な測定機器・設備を備えており、開発にフル活用しています。

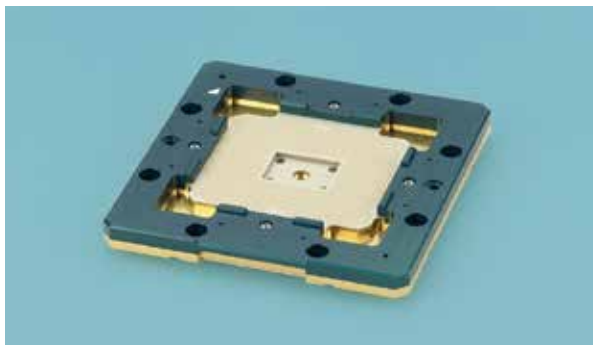


新電波測定サイト

次に、半導体検査用の治具を扱う回路検査用コネクタセグメントでは、5Gサービスの実現に必要な半導体・高周波デバイスの検査工程で使われるソケットやプローブカードの開発に取り組んでいます。モバイル端末向けの5Gサービスが既にいくつかの国々で始まっていますが、これに対応する形で、当社にも検査用治具の受注をいただいております。この下期以降、さらに増えていく見通しです。

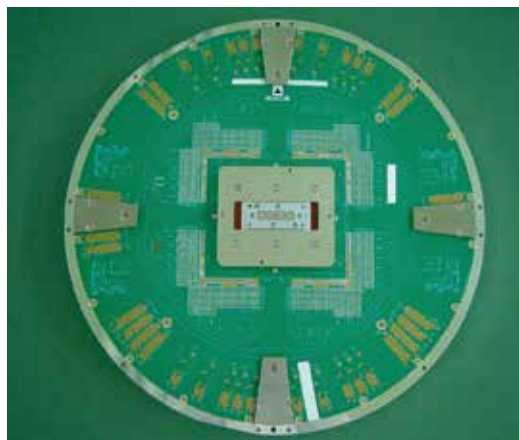
具体的な製品としては、まず、半導体製造工程における後工程の検査で使用される、高周波対応ソケット(当社商品名「ハイギガソケット」)が挙げられます。

従前から、16GHz程度まで対応できるソケットを提供していましたが、5Gサービスでは、それをはるかに超える30GHz前後の高周波帯域の利用も計画されており、それに合わせたソケットの開発を推進しています。



ハイギガソケット

また、半導体製造工程における前工程の検査で使用されるプローブカードについても、5Gサービス本格化への流れの中で、当社プローブカードの特徴であるプローブ方式によるパーティカル(垂直)コンタクト及び当社コア技術である「微細精密加工技術」と「マイクロウェーブ(高周波)技術」が評価され、ターンキービジネスに本格参入を果たしました。

プローブカード
(中心の四角の部分にプローブヘッド)

プローブカードは、「プローブヘッド」、「マザーボード」及び「インターポーザ」の3点で構成されており、当社は、そのうちのプローブヘッドを中心に提供してきました。一方、ターンキービジネスというのは、車のキーを回すだけでエンジンが起動するように、1社に注文すればプローブカード一

式がすべて揃った状態で納品されるという、ワンストップ型のソリューションのことをいいますが、当社は、事業拡大とビジネスモデル進化を目指して、このターンキービジネスへの本格参入を狙ってきました。今後も、ますます拡大する5G関連需要を確実に取り込んでいけるよう、さらなる生産設備の能力増強と技術・製造体制の強化を推進してまいります。

次に、株主アンケートでご要望が多かった「株主還元方針」について教えてください。

株主様への還元につきましては、中間／期末の配当の充実を基本とし、自社株買いは必要に応じて検討することとしています。

連結配当性向は、市場平均の水準は意識しているものの、CASE / MaaS / 5G / IoT / AI など新アプリケーションに対応する新製品開発投資や研究開発投資、将来の事業拡大・進化に向けた大型の設備投資案件が目白押しで、資金需要が高い状況が続くため、当面やや抑えた水準となる見込みです。とはいえ、そういう中でも、業績向上を着実に果たしていき、1株当たり配当金も継続的に引き上げていきたいと考えています。

最後に、中期計画の目標数値について教えてください。

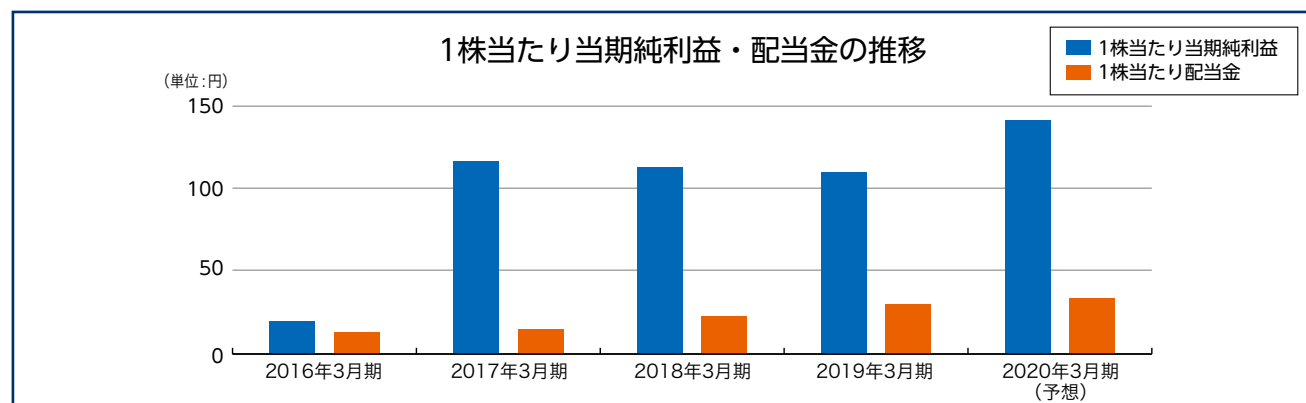
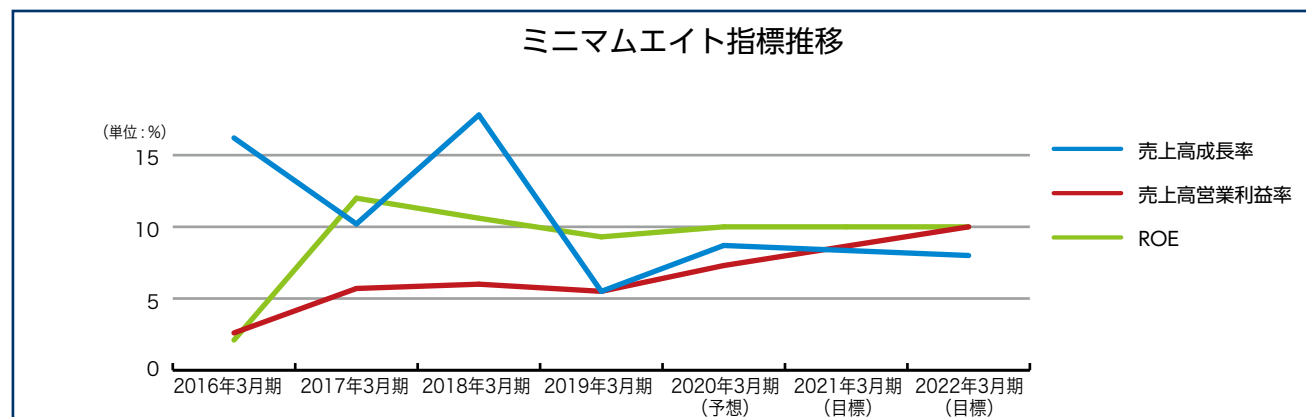
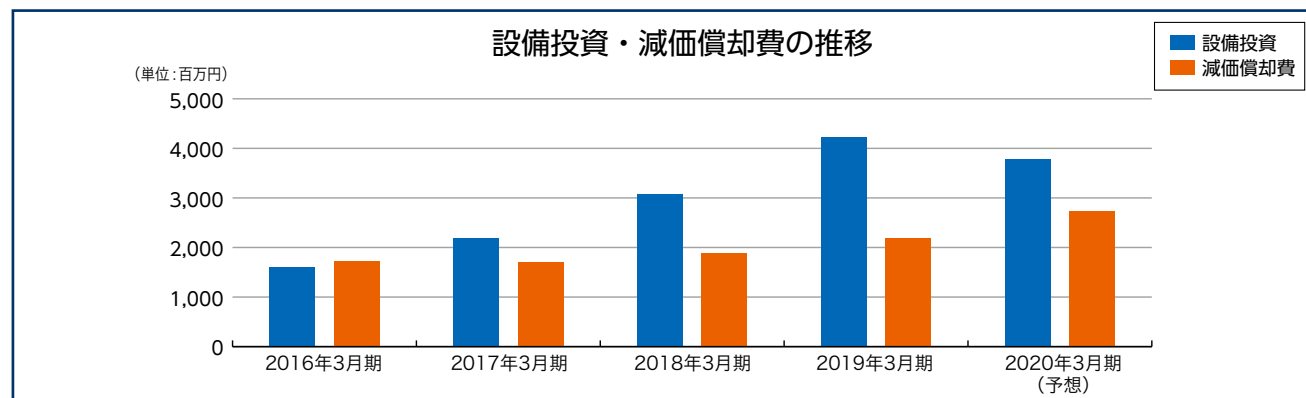
2022年3月期までの中期計画における連結業績目標は、次のとおりです。この期間中に、中期経営目標で掲げる**ミニマムエイト**(売上高成長率・売上高営業利益率・ROEを8%以上確保)を達成すべく、全力を挙げて取り組んでまいります。

<連結業績目標(2022年3月期)>

売上高 675億円(売上高成長率8%)
 営業利益 67.5億円(営業利益率10%)
 経常利益 67.5億円
 当期純利益 48.5億円(ROE:10%水準)

米中对立や英国EU離脱問題の長期化などから経済情勢・事業環境の先行きは予断を許さない状況が続いていますが、当社は、先進性・収益性を高い水準で追求する「進化経営」と、強靱性・安定性を追求する「重層化経営」により、「進化永続企業」を目指してまいります。

株主様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



トピックス

**【LTCC事業】
日本電気硝子株式会社と
LTCC事業に関する合併会社を設立**

当社は、日本電気硝子株式会社とLTCC (Low Temperature Co-fired Ceramics：低温同時焼成セラミックス)^{※1}の製造、販売を目的とした合併会社「LTCCマテリアルズ株式会社」を2019年10月に設立しました。

本合併会社の設立により、素材開発から製品製造までの一貫生産体制を実現することが可能となり、お客様の幅広いニーズに適合した製品をより迅速にお届けすることが可能になりました。

LTCC製品は、優れた電気特性(低誘電・低抵抗など)に加え、樹脂基板などに比べて多層化・高密度化が実現できることなどから、LED用パッケージや通信モジュール、半導体検査に使われるプローブカード^{※2}用基板など、自動車、通信機器分野の他、半導体検査工程などに幅広く用いられ、今後も市場の成長が見込める製品です。

当社は、長年培ってきたセラミック技術を応用して、「半導体検査機器用基板」、「高周波デバイス評価用基板」、「LEDを中心とした電子デバイス用基板」などのLTCC製品を市場に供給してきましたが、その材料であるグリーンシート^{※3}は外部調達に依存していました。

今回設立する合併会社は、日本電気硝子株式会社の無機材料開発技術／生産プロセス技術と当社の高密度多層配線設計技術／LTCC精密焼成技術を融合させることにより、グリーンシートの調達から素材の開発、製品製造まで一貫した生産体制を実現しています。

当社は、現中期経営計画で事業進化と事業の重層化の推進を掲げていますが、本合併会社の設立は当社基幹事業群への経営資源集中投資と、無機材料系要素技術強化を、アライアンスにより加速しようとするものです。



▲LTCCマテリアルズ株式会社(イメージ)

<合併会社の概要>

社名：LTCCマテリアルズ株式会社
所在地：群馬県富岡市七日市1299番地
合併当事者：日本電気硝子株式会社(出資比率70%)
 当社(出資比率30%)
合併会社設立日：2019年10月1日
資本金：3.15億円

<日本電気硝子株式会社の概要>

創立：1949年
資本金：321億円(2019年3月末現在)
本社所在地：滋賀県大津市晴嵐二丁目7番1号
事業内容：特殊ガラス製品の製造・販売及び
 ガラス製造機械の製作・販売

※1：LTCC…Low Temperature Co-fired Ceramics：低温同時焼成セラミックス。電気抵抗の低い銀または銅を導体として使用したセラミックス多層回路基板の一種。銀や銅は融点が低く、一般的なセラミックスの焼成温度(1,300℃前後)では使用できないため、セラミック材料に特殊なガラスを混ぜて低温(約900℃)で焼成できるようにしたセラミックス多層回路基板。セラミックスの耐熱性を利用した自動車用や多層・高密度化による小型・高性能が求められる通信機器分野に多く使用されている。

※2：プローブカード…半導体検査工程において、製作されたIC(集積回路)やLSI(高密度集積回路)の電気特性検査に使用される治具。

※3：グリーンシート…ガラス粉末とセラミックス粉末をシート状に成形した未焼結品。LTCC製品はこのシートを多層化・焼成することによって作られる。

アンケート実施報告

2019年3月末時点の株主様を対象に、ハガキによるアンケート調査を実施しましたところ、897名の株主様からご回答をいただきました。
その集計結果と、頂戴したご意見の中から一部をご紹介します。

【Q1.当社株式をお知りになるきっかけとなったものは何ですか】に対しては、「会社四季報」が25.1%でもっとも多く、「新聞・雑誌」の21.1%がこれに続きました。

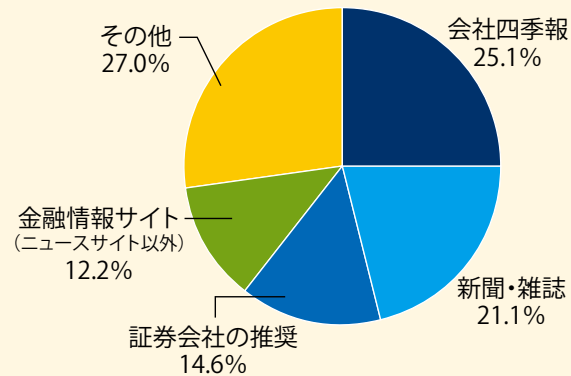
【Q2.当社株式をご購入された理由をお聞かせください】に対しては、「将来性・成長性（値上がり益期待）」が42.2%でもっとも多く、「当社の技術力」が14.5%でこれに次ぎ、さらに「事業内容」「安定性（含む配当期待）」等が続きました。

【Q3.保有方針】に対しては、「長期保有（5年以上）」が50.2%でもっとも多く、「中期保有（2～5年未満）」が35.4%でこれに続きました。

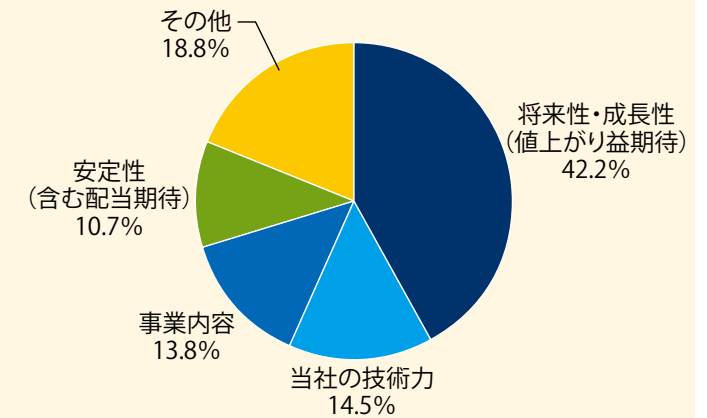
【Q4.当社株式を長期保有するためにもっとも重要な要素は何ですか】に対しては、「成長戦略」が32.8%でもっとも多く、「安定的な業績」が22.0%でこれに続きました。

以上の他にも、当社への要望・期待・叱咤・激励のお言葉など、数多くのお声を頂戴いたしました。
アンケートにご協力くださいました皆様に、厚く御礼申し上げます。
当社に対する理解を深めていただけるよう、今後も皆様のご意見を株主通信の誌面づくりに活かしてまいります。

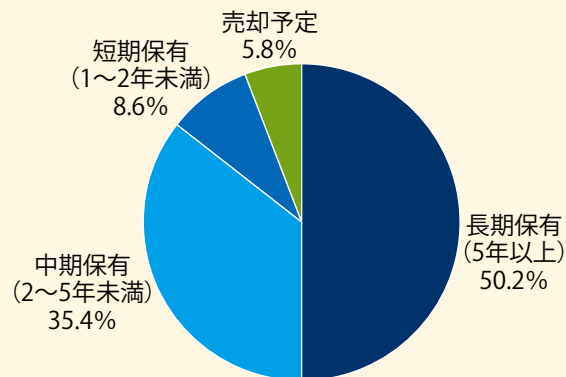
Q1.知ったきっかけ



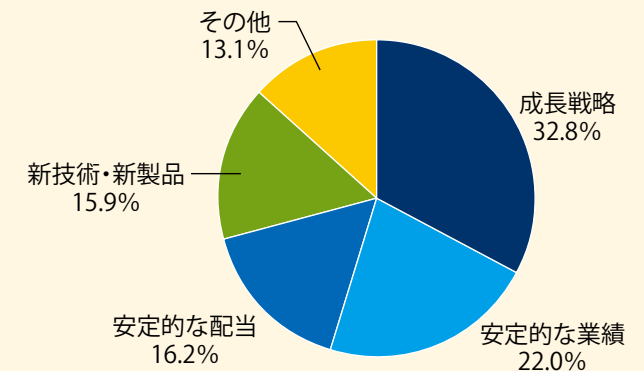
Q2.購入理由



Q3.保有方針



Q4.長期保有に重要な要素



株主の皆様からのご意見を紹介いたします(一部抜粋)

株価自体は、不安要素の多い昨今ですが、貴社方針に魅力を感じております。製品開発には、多大なエネルギーを要すると思いますが、常に前向きに進んで欲しいと思います。微力ですが、応援しています。

60代 男性 埼玉県

他社にまねできない、新技術・新製品による株価上昇を期待しています。

40代 男性 千葉県

株価の上下よりも安定した配当だと思ってます！

40代 女性 神奈川県

配当性向をより高く希望する。

70代 男性 大阪府

株をもっといても忘れてしまう会社だったけど株主通信はみやすいし、とても良い会社だと思ってきました。

50代 女性 東京都

以前より株主通信などが充実していていると思います。これからも成長期待しています。一度全て売却してまた購入しました。

30代 男性 東京都

今後もアンケートを通じて株主とのコミュニケーションを図って頂けると幸いです。

30代 男性 香川県

世界状況が目まぐるしく変わり、スピードについていけません社会勉強と思い株を少し持っていますが全く先のことはわかりません。徳間社長さんのインタビューを繰り返し読んでいます。

60代 女性 静岡県

ヨコオの成長を楽しみにしています。できたら、株主優待があると人にすすめやすいです。

60代 男性 群馬県

私は、ヨコオさんを見つけたとき、お宝銘柄を発見したと思い、ワクワクした事を今でも覚えております。長期で応援していきます。

40代 男性 岡山県

なくてはならない会社。社員を大切にする会社であってほしい。

40代 女性 東京都

微細加工技術を益々みがきをかけて欲しい。また、応用分野を拡大して行って下さい。期待しています。

50代 男性 大阪府

世界的にグローバル化とハイテク化が進む中で5G、AI、IoT等々期待の多い企業です。

80代以上 男性 福岡県

御社にしか提供できない商品、高付加価値の提供を目指してほしいです。株主として応援しています。

30代 男性 京都府

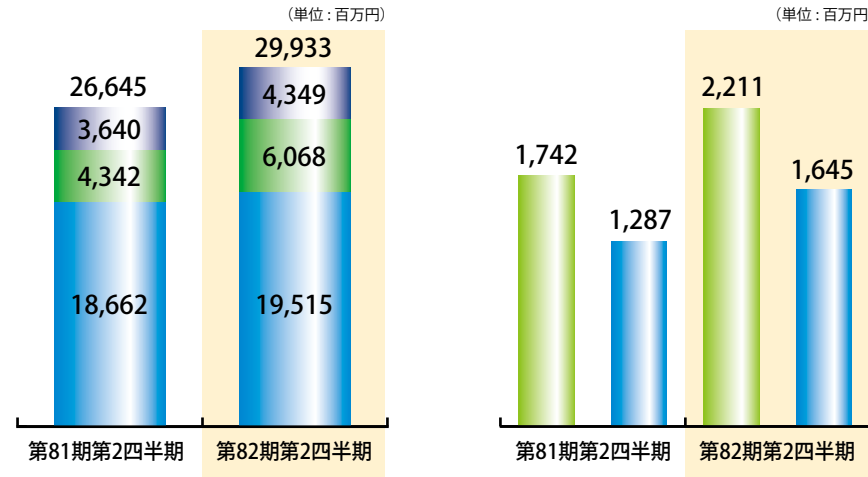
5G時代での御社の活躍を期待したい。

60代 女性 神奈川県

業績・株価推移

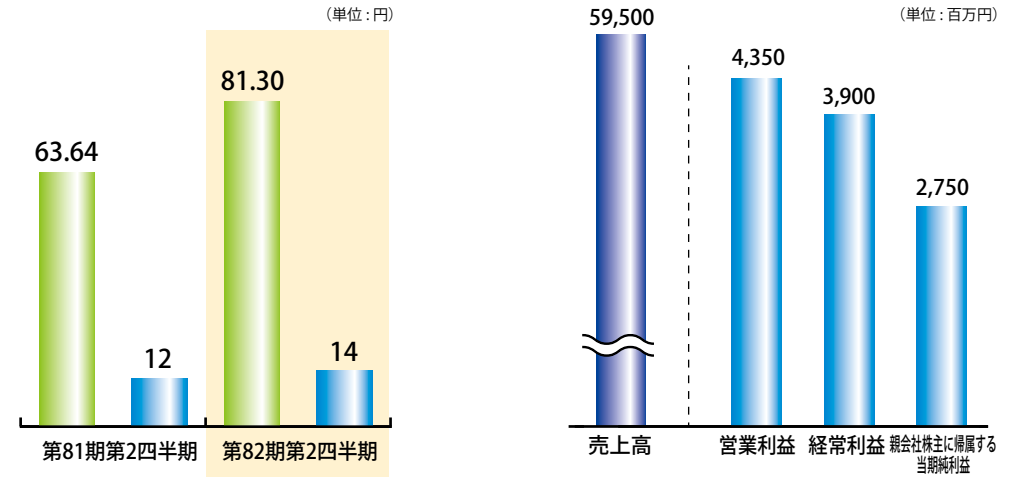
第82期第2四半期連結累計期間の業績

- 売上高
 - 無線通信機器
 - 回路検査用コネクタ
 - 車載通信機器
- 経常利益／親会社株主に帰属する四半期純利益
 - 経常利益
 - 親会社株主に帰属する四半期純利益

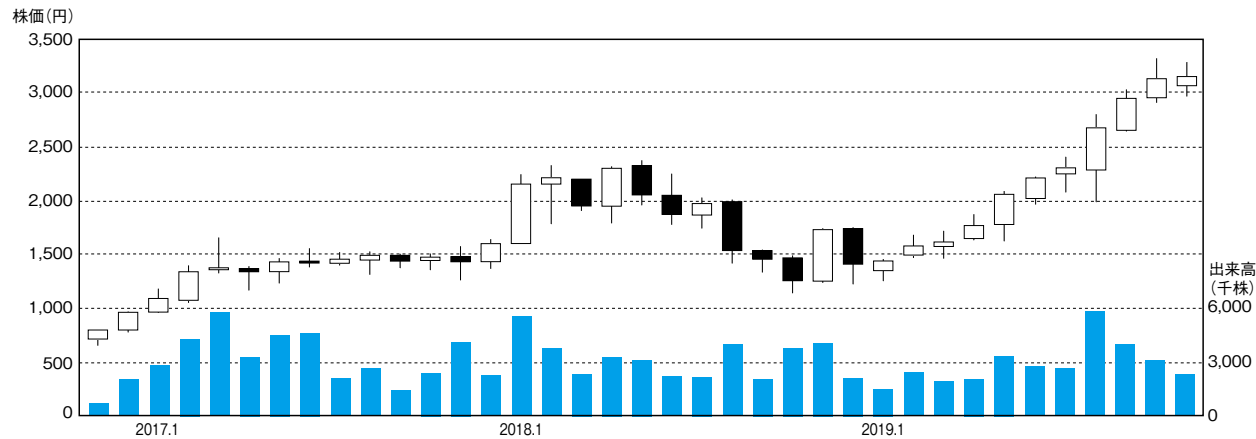


第82期通期業績予想

- 1株当たり四半期純利益／中間配当金
 - 1株当たり四半期純利益
 - 中間配当金



株価の推移



第82期通期業績予想のポイント

- 売上高は、全セグメントにおける受注増の見込みから、6期連続で過去最高を更新する見通し
- 経常利益／親会社株主に帰属する当期純利益についても、過去最高益となる見通し
- 1株当たり配当金は期末14円を予想し、中間14円と合わせて年間28円を予想

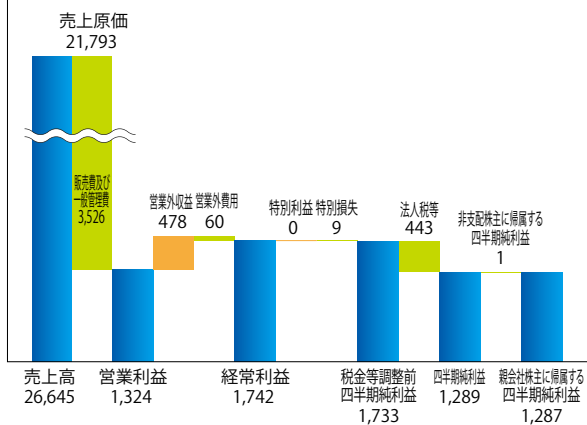
連結財務諸表(要旨)

損益計算書より

(単位:百万円)

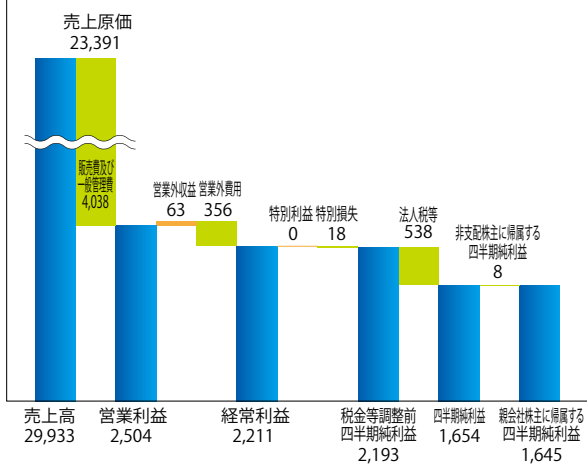
前第2四半期連結累計期間

(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)



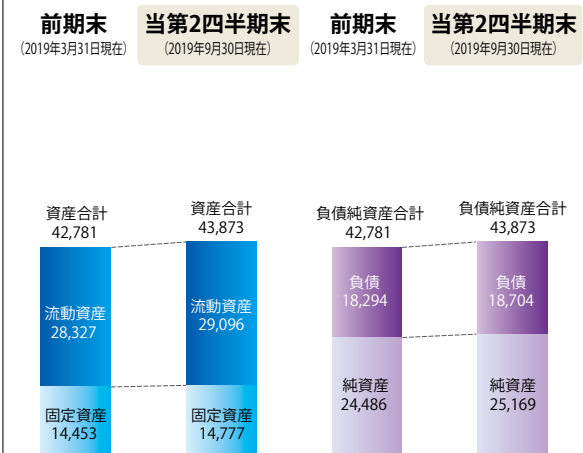
当第2四半期連結累計期間

(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)



貸借対照表より

(単位:百万円)

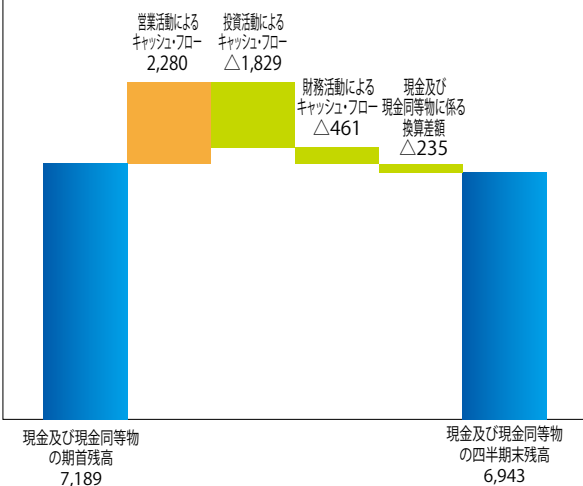


キャッシュ・フロー計算書より

(単位:百万円)

当第2四半期連結累計期間

(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)



会社の概要 (2019年9月30日現在)

商号 株式会社ヨコオ
 本社所在地 〒114-8515 東京都北区滝野川七丁目5番11号
 電話: 03-3916-3111
 創立 1922(大正11)年9月1日
 設立 1951(昭和26)年6月14日
 資本金 39億9,626万円
 従業員数 単体 869名(前期末比 52名増)
 連結 8,553名(前期末比 859名増)

株式の状況 (2019年9月30日現在)

発行可能株式総数 40,000,000株
 発行済株式の総数 20,849,878株
 (自己株式 589,150株を含む)
 株主数 5,717名

■大株主の状況(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	3,803	18.7
日本スタートラスト信託銀行株式会社	1,734	8.5
株式会社群馬銀行	990	4.8
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	890	4.3
ヨコオ取引先持株会	811	4.0
資産管理サービス信託銀行株式会社	698	3.4
三菱UFJ信託銀行株式会社	595	2.9
ヨコオ自社株投資会	497	2.4
第一生命保険株式会社	451	2.2
株式会社三菱UFJ銀行	446	2.2

※当社は自己株式を589千株保有していますが、上記の大株主からは除外しています。
 ※持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。
 ※持株比率は自己株式を除いて算出し、小数点以下第2位以下を切り捨てて表示しています。

株式に関するお手続きについて

1. 証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ・ 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ・ 株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel:0120-232-711 (通話料無料) 【書類郵送先】〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 宛
<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記以外のお手続き、ご照会等 	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

2. 特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別口座から一般口座への振替請求 ・ 単元未満株式の買取・買増請求 ・ 住所・氏名のご変更 ・ 特別口座の残高照会 ・ 配当金の受領方法の指定* 	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel:0120-232-711 (通話料無料) 【書類郵送先】〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 宛
<ul style="list-style-type: none"> ・ 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ・ 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ・ 株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿管理人	【手続き用紙のご請求方法】 インターネットからダウンロードください。 https://www.tr.mufg.jp/daikou/

*特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。